

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 奏す

- ① (皇太子に) 申し上げる
- ② (宮中に) 申し上げる
- ③ (天皇・上皇に) 申し上げる
- ④ (皇后に) 申し上げる

2 啓す

- ① (中宮が) おっしゃる
- ② (天皇が) おっしゃる
- ③ (天皇に) 申し上げる
- ④ (皇后・皇太子に) 申し上げる

3 おほとのごもる

- ① 召し上がる
- ② お召しになる
- ③ お出かけになる
- ④ おやすみになる

4 まゐらす

- ① 奏上する
- ② お伺いする
- ③ お尋ねする
- ④ 差し上げる

5 御幸

- ① 皇后のお出かけ
- ② 皇太子のお出かけ
- ③ 上皇のお出かけ
- ④ 天皇のお出かけ

「B」次の文の(訳)の「 」「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

6 ここに待りながら、御とぶらひにもまうでざりける。(源氏物語)

- (訳) ここにおりながら、(光源氏の所へ) お見舞いにも「 」「」なかった。
- ① いらっしやら
- ② おやりになら
- ③ お話になら
- ④ 参上し

7 その郎等を召すに、跡をくらみて失せぬ。(十訓抄)

- (訳) その家来を「 」「と、(その家来は) 行方をくらませて消えてしまった。
- ① お呼び寄せになる
- ② お仕えさせる
- ③ おつかわしになる
- ④ ご覧になる

8 帝、箏の御琴をぞいみじうあそばしける。(栄花物語)

- (訳) 帝は、お琴をたいそう上手に「 」「た。
- ① 演奏なさつ
- ② 扱いなさつ
- ③ お聞かせなさつ
- ④ 楽しみなさつ

9 親王に、馬の頭、大御酒参る。(伊勢物語)

- (訳) 親王に、右馬頭が、お酒を「 」「」。
- ① お勧めする
- ② 差し上げる
- ③ 召し上がる
- ④ お与えになる

10 昔、二条の后に仕うまつる男ありけり。(伊勢物語)

- (訳) 昔、二条の后に「 」「男がいた。
- ① 召し抱えられる
- ② 参上する
- ③ 寵愛される
- ④ お仕え申し上げる

11 藤壺の宮、なやみ給ふことありて、まかで給へり。(源氏物語)

- (訳) 藤壺の宮は、御病氣のことがあって、(宮中から)「 」「」なされた。
- ① お参り
- ② 申し上げ
- ③ 退出し
- ④ お召し

12 憶良らは今はまからむ子泣くらむ(万葉集)

- (訳) 憶良め(＝私)はもう(宴席を)「 」「」よう。(家では)子どもが泣いているだろう。
- ① お止めし
- ② お休みし
- ③ 退出し
- ④ お参りし

13 御身に馴れたるどもをつかはす。(源氏物語)

- (訳) (光源氏は) 着慣れた何着かの衣服を(明石の君に)「 」「」。
- ① お見せなさる
- ② お与えになる
- ③ お召しになる
- ④ お取り寄せになる

14 宿直人にて侍らむ。(源氏物語)

- (訳) (私が) 宿直の番人として「 」「」よう。
- ① 申し上げ
- ② お仕えし
- ③ 参上し
- ④ お受けし

15 故宮にさぶらひし小舎人童なりけり。(和泉式部日記)

- (訳) 亡き宮様に「 」「」ていた小舎人童(＝貴族に使われている童)であった。
- ① お聞きし
- ② 寵愛され
- ③ お仕えし
- ④ いらっしやつ

15 「」

14 「」

13 「」

12 「」

11 「」

10 「」

9 「」

8 「」

7 「」

6 「」

5 「」

4 「」

3 「」

2 「」

1 「」

